

2022 年度教育研究活動報告用紙（様式 9）

氏名	上村 眞生	職名	准教授	学位	博士（教育学）（広島大学 2012 年）
----	-------	----	-----	----	----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
保育学 幼児教育学	保育の質 保育士のストレス・メンタルヘルス 保育士の労働環境 幼児期の食育

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・保育士のメンタルヘルスに関する国際的状況 ・保育者の研修効果に関する研究 ・保育者のストレスマネジメント

担当授業科目
保育原理（前期） 子どもの理解と援助（前期） 保育内容 環境（前期） 保育内容の理解と方法Ⅲ（前期） 保育課程論（後期） 保育内容 総論（前期） 保育内容 ことば（後期） 保育内容の理解と方法Ⅳ（後期） 保育実習Ⅰ（通年） 保育実習Ⅱ（通年） 保育実習指導Ⅰ（通年） 保育実習指導Ⅱ（通年） 保育実践演習（通年） 専門研究Ⅰ（通年） 専門研究Ⅱ（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【保育原理】 保育の原理・原則を教授するに当たり、知識の提示に留まることがないように、関連する例題、ディスカッションを事前に行い、学生の中でイメージや考え、関心が喚起されてから、教授活動を行った。今年度は受講人数が少なく、授業進行におい対話を中心に行った。
授業科目名【子どもの理解と援助】 子どもを理解するための理論と方法について、教授した。種々の保育論の解説、学生による発表に加え、子ども理解のための観察技法、記録法について解説し、観察技術の獲得を目指した。
授業科目名【保育内容の理解と方法Ⅲ】 造形的表現技術の獲得を目的として、各技法の解説・実演を通して、保育における表現活動の展開方法について教授を行った。

授業科目名【保育課程論】

保育を実施する上で必要となる、カリキュラム論について解説し、保育の中で展開の仕方について解説した。合わせて、子どもの発達について、学生にプレゼンテーションを課し、定型発達児と障害のある子どもの保育に展開についても解説した。

授業科目名【保育内容 環境】

保育における環境構成の重要性に加え、保育内容「環境」の構成・展開方法を教授した。実践的な知識・技術の獲得のため、毎時間講義と演習を行い、演習中には直接指導をし、授業終了後は振り返りのための課題を与えた。各授業前後に各回の目的を提示することによる学習効果が見られた。

授業科目名【保育内容 総論】

保育内容に関する最終的な演習科目としての位置付けから、学外での演習や演習内容の充実を図った。そのため、実体験に基づく理解の促進が見られるようになった。

授業科目名【保育内容 ことば】

保育場面における言語環境の構成、子どもの言葉の発達を促すための保育方法について教授した。実体験を基にした学びを構築するために、言葉の発達を促す教具の製作等を行い、それを実際に使用する演習を中心に授業を進めた。

授業科目名【保育の表現技術Ⅳ】

保育者として必要な身体表現に関する知識と経験を蓄積することと、乳幼児の身体表現を引き出す保育環境の構成、指導上の注意点について、演習後に解説し、理解を深めるよう工夫した。学生の身体活動の経験不足による課題達成困難を訴える者もいたが、授業評価アンケートからも概ね目標は達成できたと考える。

授業科目名【保育実践演習】

保育実践力を養うために総合的な演習を実施した。4年間の学びの集大成という位置づけであり、内容的に非常に多岐・多様に渡っていたため、授業評価アンケートや学生の話から有用性は一定程度感じているものの昨年同様、「課題の量」については課題である。

授業科目名【専門研究Ⅰ】

研究とは何かということを教授すると共に、学生の関心を引き出すために、毎時間ディスカッションを行った。また、毎回課題を設け、プレゼンテーションを課した。

授業科目名【専門研究Ⅱ】

個人で研究テーマを決め、テーマに即した研究活動を支援した。研究の実施に加え、ゼミ内でのプレゼンテーションを課し、物事を客観的に捉え、他者に伝える力を養うことを心がけた。

授業科目名【保育実習指導Ⅰ・Ⅱ】

保育実習を行うにあたり、必要な知識・技術だけでなく、社会人として、専門職としての振舞い等についても教授を行った。また、実習指導案や日誌については、演習を通して実践的な指導を行った。実習後の振り返りでは、個別指導に加え、全体報告会を実施し、実習内容を再確認するとともに、個別に必要な指導を行った。

授業科目名【保育実習Ⅰ・Ⅱ】

実習先との連携をとった上で、保育実習中の巡回指導において個別の課題を抽出し、適宜指導・助言を行った。また、1日の実習終了後に学生個人が感じた課題については、その日のうちに助言するよう指導体制を採った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本保育学会	特になし	2005年6月～現在に至る
日本小児保健協会	特になし	2006年7月～現在に至る
日本保育園保健学会	特になし	2007年8月～現在に至る
日本ウェルネス学会	特になし	2009年5月～現在に至る
日本乳幼児教育学会	特になし	2018年5月～現在に至る

2021年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
子ども家庭支援論	著書	2022年	教育情報出版	①子ども家庭支援における現代的課題を解説する教科書である。編者を務めると共に、第2章・10章・11章を執筆した。 ②七木田敦・上村眞生・岡花祈一郎編著

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)
多声的保育評価の開発: 子どもと保護者の声 を評価に導入する方法	科学研究費	○ (松井 剛太) 上村 眞生 (松本 博雄) (水津 幸恵) (片岡 元子) (中西 さやか) (岡花 祈一郎) (大野 歩) (越中 康治) (佐藤 智恵)	300,000円

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称	役 職 名 等	任 期

(内 容)		期 間 等
<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県青少年アンビシャス運動 砂山アンビシャス広場 	ボランティア委員	2001年4月～
<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県保育協会遠賀中間地区 	研修コーディネーター	2018年4月～
<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県保育士等キャリアアップ研修 	指定講師	2017年～
<ul style="list-style-type: none"> ・北九州市児童福祉施設等第三者評価 委員会専門委員 	専門委員	2020年4月～

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
<ul style="list-style-type: none"> ・情報システム管理運用委員 2017年4月1日～現在に至る ・PHOTO部 顧問 2010年12月14日～現在に至る ・学生募集委員 2019年～現在に至る ・WEST 管理責任者 2018年4月～現在に至る